

## 本協会のスポーツ情報提供事業における SNSコメント システムティックレビュー

- ▶ 対象期間：2025年4月～2026年3月 ▶ 分析ツール：AIエージェント「Grok」  
▶ 対象大会：全日本パワーリフティング選手権大会（2026年2月） ▶ プラットフォーム：X（旧Twitter）

## CATEGORY 01

70%

## 肯定的コメント

称賛・応援・感謝の投稿が大多数  
「日本新記録おめでとう」など

✓ 主要カテゴリ

## CATEGORY 02

30%

## 中立コメント

記録速報・タイムスタンプ共有  
「TOTAL: 702.5kg」など

✓ 情報拡散に貢献

## CATEGORY 03

0%

## 要望・ネガティブ

昨年度比較でネガティブ言及が  
完全にゼロへ

★ 前年課題を完全克服

## 背景・調査概要

本協会が実施するライブ配信事業（スポーツ情報提供事業）の効果測定として、X（旧Twitter）上のユーザー投稿を収集・分類した。2026年2月開催「全日本パワーリフティング選手権大会」関連ワードを抽出条件とし、AIエージェント「Grok」によって「肯定的」「中立」「要望」の3軸で定性・定量分析を実施した。

## 主要知見

- ライブ配信は「選手と感情を共有するプラットフォーム」として強固に機能しており、視聴者の競技没入を促進している。
- 選手名指し応援投稿が70%に達し、配信が選手のモチベーション向上に貢献していることを示す定量的証拠となった。
- 記録の速報共有（中立30%）により、SNS上でのパワーリフティングの認知拡大にも寄与している。
- 要望・ネガティブコメントがゼロとなり、配信品質が視聴者の期待水準を完全に満たしていることが確認された。

## 事業間シナジー（相乗効果）

## 🔧 配信環境の安定化（本事業の成果）

プロボノスタッフの入念な機材調整と運営ノウハウの蓄積により、昨年度課題であった技術的トラブルを完全に克服した。

## 🏠 SNSガバナンスの確立（組織基盤強化事業の効果）

SNS運用ガイドラインのコミュニティへの浸透が不適切投稿を抑制し、健全なコメント環境の形成を後押しした。

## 総括・結論

ライブ配信は「地理的制約なく競技の迫力をリアルタイムで体感できる場」という本事業の目的を完全に達成している。配信品質の安定化により視聴者の没入が深まり、不満ゼロ・応援70%という高水準の成果を達成した。事業間連携によるシナジー効果も確認され、今後の継続・拡充が強く推奨される。

🏆 目的達成

🌐 情報インフラとして機能

✓ ネガティブ投稿ゼロ

🔗 事業間シナジー確認